

平成 21 年 2 月 6 日

2008 年度後期授業評価アンケート結果報告

1 授業評価アンケート実施の経過

名古屋経済大学では、2005 年度から全学的な授業評価アンケートを実施している。2005 年度から 2 年の期間をかけて、講義、演習、実技、実習科目を対象に授業評価アンケートを実施することにした。

2005 年度は、講義科目を授業評価アンケートの対象とした。それぞれの教員の担当科目の中で 1 科目を選択し、授業評価アンケートを実施した。総授業数 972 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、71 科目であり、実施率は 7.30 パーセントであった。総受講生数 36,800 人の中で、実施受講生数は 5,554 人であり、有効回答数は 975 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、17.55 パーセントであった。

2006 年度は、演習、実技、実習科目を授業評価アンケートの対象とした。それぞれの教員の担当科目の中で 1 以上の科目について、授業評価アンケートを実施した。総授業数 971 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、374 科目であり、実施率は 38.52 パーセントであった。総受講生数 36,781 人の中で、実施受講生数は 7,696 人であり、有効回答数は 4,588 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、59.62 パーセントであった。

2005 年度と 2006 年度の授業評価アンケートの実施率があまり高くなかったので、2007 年度は、開講されているすべての科目を対象として、授業評価アンケートを実施することにした。2007 年度前期開講の半期科目については、7 月の第 1 週に、2007 年度後期開講の半期科目と通年科目については、12 月の第 1 週と第 2 週に授業評価アンケートを実施した。2007 年度前期の授業評価アンケートについては、総授業数 291 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、283 科目であり、実施率は 97.25 パーセントであった。総受講生数 15,299 人の中で、実施受講生数は 15,081 人であり、有効回答数は 9,362 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、62.08 パーセントであった。

2007 年度後期の授業評価アンケートについては、総授業数 601 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、594 科目であり、実施率は 98.84 パーセントであった。総受講生数 21,843 人の中で、実施受講生数は 21,572 人であり、有効回答数は 12,406 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、57.51 パーセントであった。

2008 年度の授業評価アンケートについては、演習群の科目(ゼミ、卒業論文)、学外実習の科目を除いた、すべての科目を対象とした。2008 年度前期の授業評価アンケートについては、総授業数 310 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、310 科目であり、実施率は 100 パーセントであった。総受講生数 15,744 人の中で、実施受講生数は 15,744 人であり、有効回答数は 10,393 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率

は、66.01 パーセントであった。

2008 年度後期の授業評価アンケートについては、総授業数 397 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、395 科目であり、実施率は 99.50 パーセントであった。総受講生数 20,116 人の中で、実施受講生数は 20,098 人であり、有効回答数は 11,073 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、55.10 パーセントであった。

2 全授業の授業評価アンケートと実施方法

2008 年度の授業評価アンケートは、演習群の科目(ゼミ、卒業論文)、学外実習の科目を除いた、すべての授業を対象としている。演習群の科目については、授業評価アンケートの質問項目が一部適切ではないことが指摘されている。学外実習の科目については、授業評価アンケートを実施できない状況にある。2008 年度後期の授業評価アンケートの実施率は、99.50 パーセントである。

授業評価アンケートの質問項目は、次の通りである。

- 1 あなたは、この授業に出席していますか。
- 2 あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか。
- 3 教員は、授業時間を守っていますか。
- 4 授業内容は、わかりやすいですか。
- 5 教員の声は聞き取りやすいですか。
- 6 授業の速さや進め方は、適切ですか。
- 7 教員の教え方には、熱意が感じられますか。
- 8 教科書、板書、配布資料が活用されていますか。
- 9 視聴覚機器（ビデオ、OHP、プロジェクターなど）が活用されていますか。
- 10 一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか。
- 11 あなたは、この授業について不満に思っていることがありますか。次の中から 3 項目以内で選んでください。
 - 1 専門用語がむずかしい
 - 2 授業がつまらない
 - 3 黒板の字が読みにくい
 - 4 授業内容をプリントにしてほしい
 - 5 受講人数が多すぎる
 - 6 休講が多い
 - 7 開講曜日や時限が悪い
 - 8 学生の取り扱いが不平等である
 - 9 教員がいばったり、学生を見くだす
 - 10 教科書が高い又は教科書を買っても使用しない

- 11 授業のための施設、設備に満足できない
- A. あなたの所属している学部・学科はどこですか。
- 1 経済学部・現代経済学科
 - 2 経営学部・経営学科
 - 3 法学部・法学科
 - 4 人間生活科学部・教育保育学科・幼児保育学科
 - 5 人間生活科学部・管理栄養学科
- B. あなたは、何年度入学ですか。
- 1 2008 生
 - 2 2007 生
 - 3 2006 生
 - 4 2005 生
 - 5 2004 生
 - 6 2003 生
 - 7 2002 生
 - 8 その他
- C. あなたは、何年生ですか。
- 1 1 年生
 - 2 2 年生
 - 3 3 年生
 - 4 4 年生
 - 5 その他

後半の A から C の質問項目は、集計のために必要な項目であり、授業評価の内容と直接の関係がないものである。

前半の 1 から 11 の質問項目は、2005 年度から実施してきた授業評価アンケートの質問項目とほぼ同じである。11 番目の質問項目は、授業に対する学生からの要望を知るために設けている。自由記述にすべきであるという意見もあった。しかし、誰が集計するのか、個人名が書いてある場合はどうするのか、集計されたものをどのように公表するのか、などの意見が出た。そこで、複数の選択肢を学生に提示し、その中から選んでもらうことを考えた。質問項目は、全学部を通して共通のものである。

授業評価アンケートの結果については、それぞれの教員に配布することが決められている。

3 検討課題

2008 年度後期の授業評価アンケートについて、次のことを検討課題として指摘することができる。第 1 に、演習群の科目、特にゼミを対象にした授業評価アンケートの実施を検

討しなければならない。質問項目を用いた授業評価アンケートにするのか、記述式の部分を取り入れるのか、今後検討しなければならない。質問項目と記述式を組み合わせると、コストが2倍になることが予想される。

第2に、学生の出席率が55.10パーセントである。2007年度後期の57.51パーセントと比べると、やや悪くなっている。学生の出席率をどのようにして高めるのか。これは、かなりむずかしい課題であるけれども、授業への学生の出席率を高める方策を検討したい。

第3に、授業評価アンケートの結果を受け取った後、教員がどのようにして結果を生かしていくのかを検討する必要がある。そのため、2008年度の授業評価アンケート結果について、それぞれの教員に考察を書いていただき、PDFファイルを作成し、できれば冊子にすることにした。考察は、現状の説明と改善点に分けて、書いていただく。2008年2月上旬に、前期の授業評価アンケートの考察のPDFファイルが、ほぼ完成する予定である。

第4に、授業評価アンケートの結果をどのようにして、どの程度公表するかという課題がある。2007年度の場合、授業評価アンケートの結果の概要を作成し、教員に配布するとともに、大学のホームページで公開した。2008年度の場合も、同様の措置をとりたい。

次に、授業評価アンケートの結果の考察については、学生が見られるようにしたい。授業評価アンケートの結果については、学生と教員の双方向のやり取りが必要である。学生がアンケートの結果を見られること、そして、教員は授業の改善策を考えることが大切である。そこで、PDFファイルを大学のホームページで公開することを検討し、学部教授会の合意が得られれば、学内のホームページに掲載する。

4 授業評価アンケートの集計結果

(1) 有効回答数

学部学科ごとの有効回答数は、次の通りである。

経済学部・現代経済学科 2,031

経営学部・経営学科 2,381

法学部・法学科 2,306

人間生活科学部・教育保育学科・幼児保育学科 2,043

人間生活科学部・管理栄養学科 2,312

この中で、経営学部と管理栄養学科の有効回答数が、比較的多い。その理由は、授業の総数が多いためであると推測できる。

(2) 質問項目ごとの分析

1 あなたは、この授業に出席していますか。

- | | | |
|---|------------|-------------|
| 1 | ほとんど出席している | (出席率：90%以上) |
| 2 | かなり出席している | (70%程度) |
| 3 | どちらともいえない | (50%程度) |

- 4 あまり出席していない (30%程度)
- 5 ほとんど出席していない (10%以下)

この質問に対する平均値は、次の通りである。

経済学部 1.45

経営学部 1.55

法学部 1.59

人間生活科学部 1.26

この中で、人間生活科学部の平均値が、他の3学部比べて、低い。教育保育学科・幼児保育学科の平均値は1.35であり、管理栄養学科の平均値は1.18である。これは、管理栄養学科の授業は、出席率が高いことを示している。幼児保育学科も管理栄養学科も、免許や資格に関係する科目が多く、必修科目が多いのに加え、授業は、クラス別に開講されているからであると推測できる。

2 あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか。

- 1 非常に意欲的である
- 2 かなり意欲的である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり意欲的でない
- 5 全く意欲的でない

この質問に対する平均値は、次の通りである。

経済学部 1.96

経営学部 2.06

法学部 2.16

人間生活科学部 1.93

人間生活科学部・教育保育学科・幼児保育学科の平均値は、1.88であり、管理栄養学科の平均値は、1.97である。これらの平均値を比較すると、経済学部と人間生活科学部の学生が、比較的意欲をもって授業に取り組んでいると理解できる。

3 教員は、授業時間を守っていますか。

- 1 非常に守っている
- 2 かなり守っている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり守っていない
- 5 全く守っていない

この質問に対する平均値は、次の通りである。

経済学部 1.70

経営学部 1.86

法学部 1.79

人間生活科学部 1.68

人間生活科学部・教育保育学科・幼児保育学科の平均値は、1.65であり、管理栄養学科の平均値は、1.70である。教員が授業時間を守ることについては、学部による差異はほとんどない。ほとんどの教員が、授業時間を守っていると理解できる。

4 授業内容は、わかりやすいですか。

- 1 非常にわかりやすい
- 2 かなりわかりやすい
- 3 どちらともいえない
- 4 かなりわかりにくい
- 5 非常にわかりにくい

この質問に対する平均値は、次の通りである。

経済学部 2.29

経営学部 2.38

法学部 2.29

人間生活科学部 2.31

人間生活科学部・教育保育学科・幼児保育学科の平均値は、2.18であり、管理栄養学科の平均値は、2.42である。授業内容のわかりやすさについては、学部による差異はない。ただ、平均値が真ん中の3に近いことが気にかかる。学生は、どの程度授業がわかりやすいと考えているのか。学生は、授業内容を理解しているのだろうか。質問項目11の結果を見ると、「専門用語がむずかしい」と考える学生がかなり多く存在する。学生が本当に授業内容を理解しているかどうかについては、詳細な検討が必要であろう。

5 教員の声は聞き取りやすいですか。

- 1 非常に聞き取りやすい
- 2 かなり聞き取りやすい
- 3 どちらともいえない
- 4 かなり聞き取りにくい

5 非常に聞き取りにくい

この質問に対する平均値は、次の通りである

経済学部 1.95

経営学部 2.09

法学部 1.85

人間生活科学部 1.97

人間生活科学部・教育保育学科・幼児保育学科の平均値は、1.91であり、管理栄養学科の平均値は、2.03である。教員の声は、全般的には聞き取りやすい。しかし、「かなり聞き取りにくい」と「非常に聞き取りにくい」をあわせると、それぞれの学部で1割前後が存在する。中には、聞き取りにくい授業もあると理解できる。

6 授業の速さや進め方は、適切ですか。

- 1 非常に適切である
- 2 かなり適切である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり適切でない
- 5 全く適切でない

この質問に対する平均値は、次の通りである

経済学部 2.12

経営学部 2.26

法学部 2.15

人間生活科学部 2.14

人間生活科学部・教育保育学科・幼児保育学科の平均値は、2.09であり、管理栄養学科の平均値は、2.19である。授業の速さや進め方は、全学部において適切である。「全く適切でない」と答えた学生は、約2パーセントから6パーセントである。ごく少数の学生にとっては、授業の速さや進め方は適切ではないということであろうか。

7 教員の教え方には、熱意が感じられますか。

- 1 非常に感じられる
- 2 かなり感じられる
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり感じられない

5 全く感じられない

この質問に対する平均値は、次の通りである

経済学部 1.93

経営学部 2.05

法学部 2.01

人間生活科学部 1.89

人間生活科学部・教育保育学科・幼児保育学科の平均値は、1.82 であり、管理栄養学科の平均値は、1.96 である。教員の教え方には、全般的に熱意が感じられる。ただし、約 2 パーセントから 4 パーセントの学生は、熱意が「全く感じられない」としている。

8 教科書、板書、配布資料が活用されていますか。

- 1 非常に活用されている
- 2 かなり活用されている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり活用されていない
- 5 全く活用されていない

この質問に対する平均値は、次の通りである

経済学部 1.97

経営学部 2.16

法学部 2.04

人間生活科学部 2.03

人間生活科学部・教育保育学科・幼児保育学科の平均値は、2.08 であり、管理栄養学科の平均値は、1.99 である。全般的に言えば、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材が活用されている。学生にとっては、教科書や配布資料があったほうが安心かもしれない。教員の側から言えば、教科書や配布資料は、学生にしっかりと読んでほしい。

9 視聴覚機器（ビデオ、OHP、プロジェクターなど）が活用されていますか。

- 1 非常に活用されている
- 2 かなり活用されている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり活用されていない
- 5 全く活用されていない

この質問に対する平均値は、次の通りである

経済学部 2.99

経営学部 3.07

法学部 3.61

人間生活科学部 2.68

人間生活科学部・教育保育学科・幼児保育学科の平均値は、2.89であり、管理栄養学科の平均値は、2.49である。数字の上から判断すると、法学部が最も視聴覚機器を活用していない。法学部の約45パーセントの学生は、視聴覚機器が「全く活用されていない」と感じている。他の3学部では、「全く活用されていない」と感じている学生は、経済学部と経営学部で約3割、人間生活科学部で約2割である。

10 一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか。

- 1 非常に適切である
- 2 かなり適切である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり適切でない
- 5 全く適切でない

この質問に対する平均値は、次の通りである

経済学部 2.18

経営学部 2.28

法学部 2.25

人間生活科学部 2.11

人間生活科学部・教育保育学科・幼児保育学科の平均値は、2.07であり、管理栄養学科の平均値は、2.14である。一般的に言えば、教員の対応は、適切である。しかし、「あまり適切でない」と「全く適切でない」とをあわせると、約6パーセントから12パーセントになり、教員の対応を不満に感ずる学生もいる。

11 あなたは、この授業について不満に思っていることがありますか。次の中から3項目以内で選んでください。

- 1 専門用語がむずかしい
- 2 授業がつまらない
- 3 黒板の字が読みにくい

- 4 授業内容をプリントにしてほしい
- 5 受講人数が多すぎる
- 6 休講が多い
- 7 開講曜日や時限が悪い
- 8 学生の取り扱いが不平等である
- 9 教員がいばったり、学生を見くだす
- 10 教科書が高い又は教科書を買っても使用しない
- 11 授業のための施設、設備に満足できない

学生が選んだ項目は、順に「専門用語がむずかしい」、「授業がつまらない」、「黒板の字が読みにくい」である。そして、「授業内容をプリントにしてほしい」と願う学生も多くなっている。他の項目を選んだ学生は、少数である。